

## はじめに

### 志摩海女の出稼ぎに関する研究史

中田四郎の越賀文書の紹介。明治 20 年代半ば以降、志摩海女が北海道・朝鮮へ。

志摩での聞き取り・実見記録。昭和 30 年代の伊藤治氏の稿本類。

近年では、福田清一の 200 人の志摩海女聞き取りに基づく叙述。

他に瀬川清子、田辺悟、岩田準一らが一般書で言及（主に聞き取りに依る）。

\* 文献を用いた実証は中田氏のみ。ただし越賀文書に限定した史料紹介。

他の漁村文書や行政文書（水産試験場など）、同時期の新聞などを用いた分析の要。

[ 課題 ] 1、志摩海女出稼ぎの全体像。2、出稼ぎの理由・背景、歴史段階（時期差）。  
3、出稼ぎの態勢（出稼ぎ先浦村との関係）。4、加工・流通（輸出品）。

## 一、出稼ぎ地の広がり

### 1、海女漁の出稼ぎ先

熊野灘（下磯）、伊豆・相模・房総（上磯）：江戸時代から（とされる）。

利尻島・礼文島：明治 25 年から。昭和初期まで。樺太も。

他の国内各地：土佐沖島広瀬、九州（五島、肥前、日向）、八重山諸島、隠岐、能登、  
竹島、八丈島・小笠原諸島、出羽（スイリを含む）

朝鮮半島（釜山～元山）：明治 28(1895)年頃から～昭和初期？

外国各地：アメリカ、ハワイ、中国（スイリを含む）

オーストラリア：採貝を行う本邦移民増加、禁止措置（海士の可能性もあり）。

### 2、出稼ぎ海女の出身地

志摩一円。「海女が多く、耕作地の少ない地で出稼ぎ海女が多い」[伊藤治・志摩海女]  
地域差（時期的な違い）はある。

外から志摩への出稼ぎ：済州島、沖縄から。昭和 11(1936)年頃。

### 3、農業出稼ぎ

「アキ」（秋）：伊勢、伊賀、大和へ稲の刈入れ。

「チャヤマ」（茶山）：茶摘み。

\* 海女は季節労働。初秋から初春まで海女は休業。 \* 出稼ぎの一背景。

## 二、出稼ぎの態勢

### 1、浦請人の雇用に基づく出稼ぎ

熊野灘沿岸の事例（「三重県漁村調査報告書」）

浦村個別に入札。種類別に（鮑／天草／海苔...）。天草の落札金額が圧倒的に高い。

浦請人（磯売りの落札者）が個別に海女を勧誘・雇用。前金で契約、船で集団で行く。

（この態勢が前近代まで遡るか？ それ以前は、浜請＝村に販売権？）

## 浦村と磯売り

- ・紀伊、伊豆：地元海女が潜水できない場所を売る（岩田準一）。
  - ・神島：漁業権範囲内で地元海女漁対象外の海域を明治 16 年以降、伊勢山田・桃取・船越の者へ潜水器使用の鮑捕営業権を売却（神島漁協文書）。
    - \* 完全なる磯売りではない。浦村側の権利を確保。
  - ・伊豆長津呂：海女不在地に明治 43(1910)年頃石鏡の出稼ぎ海女。高収益。
    - 地元女性たちも潜り天草採取。昭和 4、5 年に出稼ぎ海女排除。
    - 志摩海女は、より遠い伊豆諸島の出稼ぎへ。（田辺悟）
- 権利を有しても活用できない海域を磯売り。対象漁獲物の価値が十分に一般化しない（さほど高くない）段階の形態。

村（漁協）の保護・管理。志摩海産同盟会、志摩郡漁業組合連合会、など。

志摩郡漁業組合連合会の「事業報告」（大正 5 [ 1916 ] 年）。

連合会として伊豆地方に出稼ぎ海女の状況視察。賃金に関し雇用主と打合せのため伊豆、熊野へ出張した答志、国崎、御座の各漁業組合の旅費補助。

## 2、非雇用・組織的出稼ぎ（村側に主体）

村を挙げての北海道への出稼ぎ（越賀文書）。明治 20 年代半ば以降活発化。

以後、同村出身者の伝手を辿って、しばしば家族単位で移住。

出稼ぎ先の浦村との紛争 = 浦請人の雇用に基づく稼業ではない。

利尻・礼文 = 移民の集落。明治 24 年までテングサの出荷なし。25 年以降活発化。

志摩海女の移住後、海女漁は展開せず（二代目不在。潜水ではない天草漁）。

被雇用者ではない海女漁か。海女不在の（少ない）地域へ。

\* 磯売り形態以上に、対象漁獲物の価値が一般化しない地域への出稼ぎ形態。

\* 熊野灘、伊豆房総以外の国内各地への出稼ぎは、浦請人の雇用形態か非雇用か不明。

## 三、出稼ぎの要因と背景

### 1、出稼ぎ地の海女漁の未発達（磯売りの前提）（プル要因）

- ・相模真鶴（大正 10 [ 1921 ] 年頃、落札者が収益を上げるため志摩海女雇用。（田辺悟）

### 2、志摩海女の労働形態

- ・季節労働としての特性。鮑漁の禁漁期間は農業も含め出稼ぎが一般的。
- ・漁期設定の違い（ずれ）。
- ・海女の多様な稼業形態。

カチドは出稼ぎに出た方が漁獲量大。フナド雇用のトマエは、浦請人と近似的関係。

- ・修行目的。

熊野灘（海野など）へ。朝鮮への出稼ぎでもあり。

志摩では家事仕事に追われ、海女の修行に専念できず。[ 西川かなさん談 ]

### 3、志摩海の磯荒れ

- ・明治 10 年代から顕著に。

明治 21 年以降（30 年まで）の三重県为天草生産量年次変化（トン）

931、49、138、77、124、183、1895、426、271、413（『伊豆为天草漁業』）

- ・蕃殖と資源保護の動き

17 C 末、紀伊白浜から伊豆へ天草の寄着した石を投入し移植？『静岡県水産誌』他。  
天草蕃殖の試み：移植、投石、磯掃除。

### 三、輸出海産物需要の拡大と志摩海女

#### 1、寒天需要の増大

- ・近代以降、天草需要の飛躍的増大（明治前期 昭和初期で 10 倍近い）。  
（18 C 半ば寒天発祥、大坂で中国輸出問屋成立。幕末に紀州藩、鳥羽藩等で専売制）  
天草の比重の高さ。明治 21 年越賀村：海陸売上高 10233 円中、石花菜 8373 円。
- ・中国向けの輸出品。嗜好品。欧米向けにも有望との見通し。  
\* 利尻・礼文への出稼ぎも、寒天需要を背景とするか。

#### 2、朝鮮海への志摩海女の出稼ぎ

村内の人間が海女らを組織化しての渡航

越賀村：山村久右衛門、井上布平ら（明治 26 [ 1893 ] 年頃から？）

渡航費各自負担、漁船、荷物運搬船。製造人。

「共同事業...各自相応之資本金并二器具等携帯」

- \* 答志村、朝鮮海水産組合に対し、準備視察のため渡韓、指示依頼。

明治 41 (1908) 年から出漁。200 人規模！（組合員数 262 人）。

- \* 村への届出（旅行証下付願。村は証明書発行。不慮の場合の対応を道筋村々に依頼。  
江戸時代以来の制度に基づくか。明治 34 (1901) 年以降は届け出は消滅）。

当初は志摩から舟で渡海。明治末期、参宮線延長後は汽車・汽船 [ 治・和具海女 ]

商業資本家的雇用人に連れられた渡航

釜山の芦刈浅次郎、多田良策、大阪の川上保太郎、和具村山本作兵衛ら組織的雇用。

月給制（+歩合。男の工金より海女の方が高い）。食糧等は雇い主。

他に長崎商人竹内福造や佐藤吉太郎、大阪の主馬太兵衛、大分県宇佐郡豊田豊助、

志摩郡御座村・山村模太郎ら。長野の商人らも参加（朝鮮海通漁組合聯合会会

報）。

紀州航路（汽船）の利用。和具沖越賀沖に停泊、小舟で乗船。[ 伊藤治・和具海女 ]

#### 3、朝鮮海の漁業権と組織的進出

「日本朝鮮両国通漁規則」（明治 22 [ 1889 ] 年調印、翌年公布）。朝鮮近海漁業権獲得。

「遠洋漁業奨励法」（明治 30 [ 1897 ] 年）施行。

朝鮮出漁の規模（『朝鮮海通漁組合聯合会会報 第四号』より）

明治 35(1902)年 6 月段階で 835 艘、人員 4720 人。

うち「裸潜業」は三重、愛媛、長崎、熊本、大分、佐賀で 120 艘 950 人。

\* 地域漁業権への配慮なし(不要) = 他地域出稼ぎとの違い(利尻礼文と共通)。

半島住民との衝突。濟州島事件、北青(プクチョン)新浦での襲撃事件。

\* 朝鮮半島でも「磯売り」あり。

・朝鮮海出漁組合：山口県下馬関で創立会。明治 28(1895)年。

山口県知事、村田水産会幹事長ら本県へ掛合。郡長へ通知。

共同運送船建造、蕃殖方法、売買法、貯金、共同製造場、救助等。

・三重県朝鮮海通漁組合組織(和具村山本喜平他)。明治 34(1901)年。

組合で雇い入れ、渡航(越賀文書で村への届け出が消滅する要因?)

・志摩海産同盟会 明治 35(1902)年。

出稼ぎ海女保護目的。御座村で結成、志摩郡他村も加盟申込み。

・朝鮮海水産組合：外務農商務大臣認可。

明治 37 年 7 月、韓国枢要の地に漁村建設計画。

漁業根拠地移住規則。、牧島(影島)の片田村形成。

(答志村、朝鮮海水産組合に指示依頼した上での出漁)。

・三重県水産試験場朝熊丸、韓海出漁臨時報告(明治 41 年 4 月 ~ 10 月)

・韓海漁業会社の設立(明治 43 年)『大日本水産会報 号外』

#### 4、海女漁獲物の加工と流通

江戸期からの俵物の歴史 = 加工が前提。近代以降の輸出品も同様。

鮑：干鮑(明鮑、灰鮑)、粕漬け鮑

干鮑、海外輸出一、二の品。「乾鮑製法」[越賀文書]。

乾鮑、鮑粕漬を出品(内国勸業博覧会?)。缶詰(栄螺も)

天草：心太、寒天。他に肥料、細菌培養基、化粧品? 糊? ...。

大日本水産会幹事長・村田保の上申書：寒天は欧米向け輸出品として有望。

寒天としての商品化は江戸後期から。幕末期には俵物として長崎から輸出。

兵庫と信州諏訪の寒天加工。利尻・礼文。志摩からも。

他に岐阜恵那など。国内の加工産業。

海鼠：煎海鼠(元々の俵物の一)

輸出ルート：長崎、横浜の商人に販売。中国料理素材?(寒天は?!)

朝鮮半島への出稼ぎで、加工の上で現地販売?

おわりに

志摩海女：日本列島の海女で最も活発、大規模に出稼ぎ。組織基盤。技術水準の高さ。

明治 20 年代以降の活発な出稼ぎは、磯荒れ + 天草需要の増大が背景。

朝鮮半島への進出は、国家政策、行政、商業資本家の後押しによる。